



—東地中海地域ニュース—

トルコ：与党代表団の訪米に対する米国内の反応

(6月18日付現地紙)

18日付現地紙は、トルコに関する米国内の動静について報じている。概要は以下のとおり。

1. オメル・チェリッキ外交担当副党首が率いる公正発展党（AKP）派遣団がイスラエル・トルコ関係およびイラン核問題に関する意見交換のため米国を訪問中に、米国の有力議員からトルコに対する批判が相次いだ。各有力議員の発言は以下のとおり。

(1) ジョン・マケイン上院議員

エルドアン首相の言動は非常に不愉快である。国連安保理におけるイラン制裁決議に対するトルコの反対票、エルドアン首相のイスラエルに関する発言および取るに足らないウラン交換協定は、トルコが交差点に立っていることを示している。

(2) エリオット・エンゲル会員外交委員会委員

トルコの行動は恥ずべきものである。過去2年間トルコ政府が何を行ったかを見れば、非常に強力なイスラム的傾向を有しており、欧米や NATO ではなく、イラン・中東を向いていることが分かる。

(3) シェリー・バークリー下院議員

私の考えでは、あの船（イスラエルの攻撃を受けたガザ支援船）で9人が亡くなったのはトルコの責任であってイスラエルの責任ではない。（AKP 派遣団の訪米に関して）トルコは我々に気に入られようと頑張っているが、政策において変化が見られるまでは彼らを自分の事務所に招くつもりはない。今の姿勢が続く限りトルコが EU に入るのはふさわしくない。

2. ワシントンを訪れた AKP 代表団は、米国内の主要なユダヤ組織の抗議を受けた。ハアレツ紙によるとアメリカ・イスラエル公共問題委員会（AIPAC）、ブナイ・ブリスおよび名誉棄損防止同盟（ADL）は、トルコ・イスラエル関係がこじれたことに抗議するためチェリッキ AKP 副党首の面会要請を拒否した。これについてフォックスマン ADL 全国理事はハアレツ紙に対し、「対話および面会は重要である。しかし、会談がまったく意味をなさない時がある。今日はその時である」と述べた。他方、アメリカ・ユダヤ人委員会（AJC）は、トルコとの従来関係を維持していく必要があると同時に、批判は率直に伝える必要があるとの考えから、AKP 代表団との面会を受け入れた。

3. 米国議会内のトルコに対する否定的な雰囲気を利用しようと試みるアルメニア・ロビーは、ジェノサイド決議案を改めて議会の議題に載せるため動き出した。252 ページからなるアルメニア虐殺決議案を準備したアダム・シフ民主党下院議員は他の下院議員に書簡を送り決議案支持を呼びかけた。シフ議員は「最近のトルコの姿勢に鑑みれば議会は偽りの友人の歓心を得るために死者を冒瀆し続けていることをもう一度考えるべきだ」と述べた。現時点でアルメニア虐殺決議案を支持している下院議員は435名のうち142名。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799